

「医療従事者の倫理的行動」の 概念分析

中神 克之¹⁾ 松田 麗子¹⁾ 澤田 美和²⁾
森木 ゆう子³⁾ 江口 秀子⁴⁾ 明石 恵子²⁾
名古屋女子大学健康科学部看護学科¹⁾
名古屋市立大学大学院看護学研究科²⁾
大阪公立大学大学院看護学研究科³⁾
鈴鹿医療科学大学看護学部⁴⁾

COI

- 演題発表内容に関連し、発表者に開示すべきCOI関係にある企業などはありません

はじめに

目指すべきチーム医療

- ・ 患者と家族、医療従事者が、同じ考え・思いで倫理的問題を解決していくことが理想



現実はどうか？

- ・ 倫理的問題の捉え方は、医療者自身の価値観や役割、組織の文化等によって異なるため、時に不一致が起きる



この要因

- ・ 期待される倫理的行動の定義が曖昧だから

研究目的

医療従事者の倫理的行動の概念分析を行うこと

**医療従事者とは、
医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、
言語聴覚士、臨床工学技士、診療放射線技師、
医療ソーシャルワーカー、社会福祉士、
精神保健福祉士、臨床心理士、
認定心理士、診療情報管理士
の14職者を指す**

研究方法

Ⅰ. 医中誌、PubMed等でキーワードを「倫理的行動」「ethical behavior」、「ethical attitude」、「ethical action」、「ethical conduct」として検索

除外基準:

- ✓対象が看護学生と教員の研究
- ✓記述内容が倫理的行動と関係のない研究
- 外国文献は、検索数が膨大のため、構成概念が明確化されている過去10年以内の本文入手可能な尺度開発研究に限定した

2.各職能団体の倫理綱領等の検索

- 「職種」＋「倫理綱領」でインターネット検索
- 各職能団体の倫理綱領・行動基準等を検索

3.1, 2の文献の記述内容から、倫理的行動の属性、先行要件、帰結に関する記述を抽出し、コードを作成

4.コードの類似性と相違性に基づいてカテゴリー化を実施

5.カテゴリーの関係性を構造化し概念モデルを作成

※3～5はWalker & Avantの概念分析方法を用いた

結果

- **分析対象文献は52編**

和文 23編

英文 15編

倫理綱領等 14編（医師、看護師、薬剤師、診療情報管理士 等）

抽出コード数 68個

カテゴリー数 10個（先行要件3、属性4、帰結3）

先行要件、属性、帰結の全カテゴリー

	カテゴリー
先行要件	倫理問題の対応能力
	専門職の役割意識
	組織の課題解決力
属性	対象者の尊厳の遵守
	コンフォートの促進
	共有意思決定支援
	組チーム医療の実施
帰結	専門職としての成長
	医療・ケアの質向上
	多様性尊重社会の実現

先行要件：その概念の発生に先立って生じる事柄

カテゴリ	サブカテゴリ
倫理的問題への対応能力	倫理的問題の明確化
	倫理的問題への気づき
	倫理的問題への対応の検討
専門職としての意識	患者との信頼関係構築への意識
	患者中心の医療の意識
	自己研鑽
	自分の能力に応じた実践
	心身の自己管理
	専門職としての自覚
	専門職の規範遵守意識
	権利擁護者役割の意識
組織の課題解決	最善医療サービス提供の心構え
	最良医療チーム形成への意識
	組織の課題解決への取り組み
	多職種間の良好な関係

属性：定義属性とも呼ばれ核心的な事柄

カテゴリ	サブカテゴリ
尊厳の遵守	患者の尊重
	公平な対応
	平常心での対応
	情報の保護
コンフォートの促進	身体 of 安全・安楽の保持
	心理的安寧を促す支援
共有意思決定支援	患者・家族の意向尊重
	状況理解の支援
	患者・家族と医療者の目標共有
	代理意思決定支援
チーム医療の推進	多職種連携
	医療チームの責務遂行

帰結：概念が発生した結果として生じる事柄

カテゴリ	サブカテゴリ
専門職としての自律・成長	実践に対する自己評価
	倫理的行動の内省
	専門職としての成長
医療・ケアの質向上	医療・ケアの質向上
多様性尊重社会の実現	多様性尊重社会の実現

考察

- 倫理的行動に影響を与える前提条件・背景
 - 個人の倫理問題への気づきや対応する能力
 - 規範の遵守や患者中心の医療提供等の個人の専門職としての役割遂行意識
 - 最善な医療チーム形成への意識や良好な多職種関係等の組織の課題解決能力

ということから・・・



示唆

- 個人的な倫理問題への感受性やプロ意識の他に、組織風土の醸成も倫理的行動が発揮される大切な要因

- 倫理的行動の核心的な行動

- 公平な対応や患者の尊重等の患者の尊厳を守ること
 - 身体 of 安全安楽の保持や心理的安寧等の患者のコンフォートを促進すること
 - 患者家族の意向尊重や状況理解の支援等の共有意思決定を支援すること
 - 多職種連携や医療チームの責務遂行のチーム医療を推進すること
- ということから・・・



示唆

- 倫理的行動の核心は、患者・家族が高い満足感を得られるよう、患者・家族を中心とした医療を、チームとして提供すること

- 倫理的行動がもたらす結果や影響
 - 実践への自己評価や倫理的行動の内省等の専門職としての自律・成長
 - 医療・ケアの質向上
 - 多様性尊重社会の実現

ということから・・・



示唆

- 倫理的行動により、職員の自己成長と病院・施設のサービス向上のみならず、将来的には多様性を尊重した社会の実現に向かう

結論

医療従事者の倫理的行動は・・・

- 倫理問題の対応能力
- 専門職の役割意識
- 組織の課題解決力

を必要（先行要件）

- 対象者の尊厳の遵守
- コンフォートの促進
- 共有意思決定支援
- チーム医療の実施

が核心的行動（属性）

- 専門職としての成長
- 医療・ケアの質向上
- 多様性尊重社会の実現

を獲得（帰結）